



紐熨斗瓦(ひものしがわら)

屋根の一番てっぺんにある水平部分を「大棟」と言います。その大棟をつくっている一部が「熨斗瓦」です。

瓦と棟だけでは雨水が浸入しやすいため、熨斗瓦を積んで防水性を高めています。

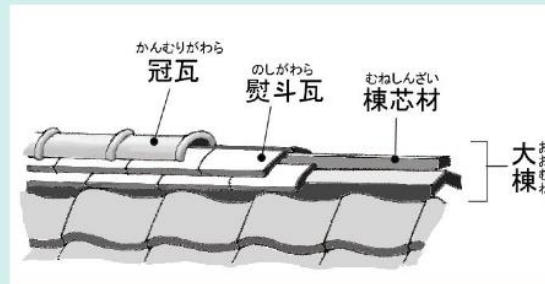
その熨斗瓦の継ぎ目を覆うために「紐」と呼ばれる突起を付けた熨斗瓦を「紐熨斗瓦」と言います。

祝儀袋などの右上にある飾りを「熨斗」と言います。熨斗は、古来より長寿に通じる縁起物とされており、それを紐で結ぶ「紐熨斗」は、とても縁起のよい物なのです。

ここの黒い部分を見て。これは「黒漆喰」と言って、幕末に江戸・日本橋の豪商の間で流行したそうよ。

黒漆喰は上塗りに煤煙、墨汁などを加えて磨き上げたもので、単に塗るだけの白漆喰と比べて時間もお金もかかるの。だから、黒漆喰塗建物をつくれるということは商人の富の象徴だったし、請け負う職人にとっては、高い技術を発揮できる誉れ高い仕事だったの。

でも、この建物は大正期に建てられたので、きっとそういう“江戸の粋”にあこがれていたのかもしれないわね。



熨斗瓦(のしがわら)

紐熨斗瓦



紐(ひも)



紐熨斗瓦(ひものしがわら)